

施策番号 3-3-3	施策名 上下水道の整備	基本目標	快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり		
		政策名	自然と調和した生活環境の整備と環境の保全		
主管課 水道課	施策関係課 住民生活課	課長名	西川 一浩	内線	420

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
上下水道等の整備により、ライフラインを確保し、快適な生活環境の維持に努めます。		上下水道等施設	施設を維持し、未普及地への拡大をすすめる				安全安心な水が利用できる
成果指標	説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	
① 水洗化率(下水道・集落排水・合併浄化槽)	決算統計	%	95.3	96.0	96.1	95.6	
② 水道普及率(上水道・簡易水道)	決算統計	%	85.5	83.6	82.8	90.9	
③ 水道未普及区域(区域内整備戸数)	決算統計	戸	85	85	79	51	
成果指標設定の考え方	①公共下水道は、概ね横ばいであり、区域内人口及び水洗化人口、共に郊外地からの人口流入による個別排水区域内人口減少分を追加した。集落排水は現状維持とした。個別排水は毎年度1.2%の人口減と想定し、個別排水設置分年間5基に1基当たり3.4人分を追加した。しかし、人口減少に伴う既存施設の休止・世帯分離における一戸当たりの人口減少を考慮した。②平成23年度作成の「水道事業水資源対策基本計画」による将来予測による。③道営事業で取り進める営農用水の工事進捗による未普及区域内整備戸数とした						

2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費(千円)	898,830	853,139
人工数(業務量)	6,5395	6,9583

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	人口減少などによる水道普及率は低下しているが、拡張区域の工事は順調に進んでいる。郊外地における個別合併浄化槽の設置により水洗化は向上している。
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	上水道区域拡張地域の工事も、順調に進んでいる。個別合併浄化槽の設置についても、毎年計画的に予算計上をし実施をしている。
(2) 施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	個別合併処理浄化槽新設事業 下水道建設事業 配水管整備事業 上水道(第6期)拡張事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> 個別合併浄化槽は、世帯分離等住宅の新築に伴う要望は増加の傾向である。 下水道施設は、集落排水施設を含め、老朽化対策(改築・更新、長寿命化)及び耐震化対策等を進めている。 簡易水道施設は、河北地区において、老朽化・水源(水量)不足対策として道営事業による整備事業を平成26年度より着手している。 上水道施設整備は、一部無水源地域の解消に向け区域拡大地域の施設整備を進めている。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・上下水道施設は、住民生活に必要な不可欠なライフラインとして、地域住民の生命と暮らしを守るという極めて重要な役割を担っていることから、今後においても現状施設の維持管理と適切な施設の改築更新・耐震化等を進めて行く必要がある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・上下水道事業は、事業経営の面においても、重要なライフラインであることから、日常の維持管理に努め安全、安心な供給に対する要望がある。 ・郊外地における生活環境及び水洗化向上を図るとして個別合併処理浄化槽新設事業は、農業後継者の世帯分離や町外からの移住者等による新規要望が増加傾向にある。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ●課題① 上水道施設の整備強化 <ul style="list-style-type: none"> ・現在取り進めている様々な生活環境に係わる整備の他にも、上水道では、老朽施設等の再整備及び未普及地域の解消対策を今後においても計画的に取り進める必要がある。 ・平成28年3月(平成27年度)に策定した「芽室町上水道事業施設整備基本計画」に基づき事業の計画的・効率的な実行を図る必要がある。 ●課題② 良好な生活環境の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・個別合併浄化槽は、郊外地(農村部)における下水道施設であり、より多くの住民が良好な生活環境を確保するために必要な施設であり、「合併処理浄化槽基本計画」に基づき整備を推進する必要がある。
--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	計画に基づく施設維持に加え、上水道区域拡張地域の整備を進めるなど、施策は大きく前進したと言える。		A	B	C	D	E
進捗結果				○			
今後の取組に対する意見	計画に基づき適正に進めてもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	当初の予定どおり進んでいる。庁内評価と同じく策定時と比較して大きく前進したと評価する。		A	B	C	D	E
進捗結果				○			
今後の取組に対する意見	老朽化した施設の改築更新・耐震化は非常に大切である。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					